

タクシーのご用命は0120-148-512登山ハイヤーへ

無料

研究光箱情報根觀

箱根觀光情報新聞

箱根観光情報新聞
2025冬号第一版
令和7年12月17日発行
企画制作
箱根観光情報研究会
協力
箱根モビリティサービス株
制作責任者:美馬 哲
発行部数:700部



箱根は古くから駒ヶ岳をはじめとした山々が信仰の対象だったため、人気の神社が沢山あるが、今号では仙石原の金時山山麓にひつそりと鎮座する公時神社を紹介しよう。

祀られているのは童話や童謡で知られる金太郎のモデルとなつた坂田公時だ。

坂田公時は天暦一〇〇年（九五六六年）の誕生とされ、

足柄山で育つた。童話では、熊と相撲を取るなどして元気に育つたと言われている。天延四年（九七六年）、坂田公時は清和源氏三代目の源頼光に出会い、その力を認められて家来となり、酒呑童子（しゆてんとうじ）退治などで活躍して後に源頼光四天王と呼ばれるようになつた。現在の社殿は昭和三六年

周辺には金太郎が手毬石としたと言われる「手毬石」や蹴落としたと言われる「蹴落とし石」、現在の社殿が建立される以前は祭神が行われていた元宮「奥の院」が存在する。本誌編集院がチャレンジしたといふ院の院までは二三分程。山道なので、歩きやすい

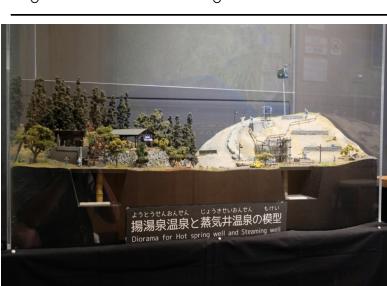
(一九六一年)の建立。
地元の氏子会の努力で管
理運営が続けられており、
毎年五月五日の子供の日に
は国重要無形民俗文化財に
指定されている「箱根仙石
原湯立獅子舞」が奉納され
ている。



社務所では御朱印、お参り、おみくじ、絵馬などを扱っているので、お詣りの際に立ち寄ると良いだけあります。なお、公時は山名のほかに金時と表記とされることがあります。諸説あるが、公時は神社を運営する氏子会ではある。公時を採用しているところが多いです。

靴と服装がお薦め。「奥へ院」は大きな岩の上に歷古を感じさせる祠と大きななまはぎがある。帰りは下りなので一五分位だつ。子供の成長や健康祈願や安全祈願のご利益があると言われる神社なので、年始のお参りにお薦めだ。

箱根で一番の人気観光スポットと言えば大涌谷だ。現在もいたるところから噴気が上がっている現役の活火山の火口だ。訪れた人はその雄大な景



The image shows three large, irregular geological rock specimens displayed on a dark blue wall. Each specimen is mounted on a stand and has a small white rectangular label with text and a small logo. Above each rock specimen is a framed informational display board. The boards contain text and small maps. The rocks themselves are layered and show various sedimentary structures. The overall presentation is a formal museum or educational display.

実は本紙編集長も調べ物などで度々お世話になつてゐる施設だ。この施設は黒たまごやお土産を扱つてゐるショップ、カフェがある「黒たまご館」一階にある。入口は黒たまご館に向かつ

の風景を大アリに收めてお
帰りになつてしまふ。
冬の寒い日は一〇分ほど
で退散してしまふ海外から
のお客様もいらっしゃる。
本誌編集長は日頃から残念
に感じていた。そこで、今
号では大涌谷をさらに楽し
める施設として大涌谷園地
内にある「箱根ジオパーク」
を紹介する。

しかし、観光でお越しになるほとんどの方が、展望台から谷の底を眺め、黒たまごを召し上がって、黒たまごのオブジェの前で記念撮影、晴れていれば富士山

ところだ。もちろん、黒たまご館の館内から階段で一階に下る)ともできる。
二〇〇三年に老朽化のために閉館した「箱根町立大涌谷自然科学館」の後継の施設として二〇一四年に開館。箱根町観光課が運営しており、箱根ジオパークの拠点施設としても位置付けられている施設だ。



なアロセスを経て形成されたのか、芦ノ湖がいつ今の形になったのかが写真と解説で丁寧に説明されている。また、大涌谷の源泉として供給されている蒸気井温泉の仕組みも模型やジオラマで紹介されているのでご覧いただきたいところだ。

ここで、箱根の地形の形成過程や蒸気井温泉の知識を得た後で大涌谷の景色を眺めれば、きっとさらに充

る。特にお薦めなのは箱根の地形の形成過程。箱根の外輪山や大涌谷のある中央火口丘がどのよう

箱根食堂開店 今年一〇月、登山鉄道の終点強羅駅の北側にある宮城野に新しい食堂が開店した。店名は箱根食堂。オーナーはノブレス特朗で知られる松久信幸氏。四季折々の風景とともに、訪れる人が心地よい時間を過ごせる場所ということで、宮城野に出店したとのこと。宮城野は強羅や仙石原、桃源台方面に向かうお客様も立ち寄れる絶好の口ケーションだ。

「ご来店いただけるお客様にどうつて、ほつとするレ

実した箱根観光になるだろう。英語表記もあるので、海外からのお客様にもお薦めだ。年中無休で開館時間は九時〇〇分～一六時〇〇分。入場料は一〇〇円。



箱根観光情報新聞は今月一日に創刊六周年を迎へ、累今号は四七号となり、累計発行部数は三一、二〇〇部となりました。取材や配布にご協力いただいた皆様に







箱根観光情報新聞QRコード

ジなどで営業日、営業時間などをご確認くださいます。ようお願いいたします。

なお、左記QRコードで過去の記事や画像、編集長の思い出などを紹介した本紙ホームページにアクセスできるのでお試しください。

本紙ではお客様にできる限り正確に情報を伝えよう努力しておりますが、紙面の都合上、お店の場所や営業日、営業時間などの詳細をお伝え出来ない場合がございます。お手数をおかけしますが、訪問される前にお店や施設の本・パンフレットなどで営業日、営業時間などをご確認ください。

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
なお、来年（令和八年）
三月に富ノ下のNaray a Cafeギャラリーで箱根観光情報新聞写真展「編集長が見つけた箱根の景色」を開催することになります。写真展の詳細は本紙ホームページ、フェイスブックでお知らせしますので、どうか宜しくお願いします。

箱根に観光に来たけれど
「どこを見たらいいかわからない。」
「効率的に観光したいけれど・・・。」
とお悩みのあなた
箱根観光は登山ハイカーがお薦めです。

今すぐ
0120-148-512(携帯OK)へ

